



グランシップマガジン

[ジー] vol.45

GRANSHIP magazine

WINTER 2009



series わが羅針 第45回

桂 歌丸

SPECIAL 2

中学生のための音楽会

中学生諸君! いい音楽を聴こう。

coming soonII

静岡の魅力 第5回フォトコンテスト

入賞作品、決まる!

次世代を創る顔

布小物作家 オオノ エリ

しずおかアーティスト・リレー ㊿

マクラメ作家 鈴木 真弓

村松友視の文化漫遊㊿

SPECIAL 1

2009年しずおか 連詩の会

「言葉の収穫祭」の巻

ART:MICHIAKI MOCHIZUKI

10th Anniversary
上質を、身近に。

GRANSHIP
静岡県コンベンションアークセンター



「ドアのカードケース」



「時計ヘアゴム」

時計や辞書、楽器、扉がそのままバッグやポーチになっている。「建物や風景写真の中の、古くからある形に惹かれます」。抑えた色調や「きつちり新しいものより、煤けた雰囲気が好き」という素材へのこだわり、独自の世界観が透けて見える。

中学生の頃から洋服などを手作りし、「きちんと技術をつけたくて」大学は服装学部へ。その後、アパレル会社に職を得るも「つくりたい欲求が溜まり」退社。一転、今は針と糸を手にする毎日だ。「絵は苦手だし、裁断も好きじゃない。でも、刺繍は好きなんです。糸を組み合わせて、チマチマ作っていくのが楽しい」とやわらかな笑顔で語る彼女。「それでもやっぱりいつかは服を…ワンピースを作ってみたいです。本当にいつか、ですけど」



おおの えり

2005年、文化女子大学服装学部卒業。その後、アパレル会社勤務を経て、'07年3月より作家活動に入る。現在、刺繍を中心とした手仕事を展開。coLとして雑貨店での販売を中心に活動中。さらに、これまでさまざまな企画展に参加のほか、'09年6月には初個展「～窓ぎわの時間～」を開催。1982年静岡県静岡市生まれ。※静岡市内の雑貨店 tanonにて展示会開催。期間／12月12日(土)～12月25日(金)
<http://porte2col.web.fc2.com/>

布小物作家

オオノ エリ

古くからある形に心惹かれて。
針と糸で写しとつていく過程が楽しい。

Contents

次代を創る顔④ 2

布小物作家 オオノ エリ

しずおかアーティスト・リレー⑦ 3

マクラメ作家 鈴木 真弓

SPECIAL-1 特集 4

2009年しずおか 連詩の会

「言葉の収穫祭」の巻

coming soon I 10

中村 絃子

デビュー50周年記念ピアノ・リサイタル

series わが羅針 第45回 11

桂 歌丸

「他人の間、自分の間。」

SPECIAL-2 小特集 16

中学生のための音楽会

中学生諸君! いい音楽を聴こう。

グランシップベンクラブ 中川 洋一 (浜松学院大学講師) 19

coming soon II 20

静岡の魅力 第5回フォトコンテスト

入賞作品、決まる!

essay 村松友視の文化漫遊③ 22

「静岡人のさわやかな反逆」 画/風鈴丸

information a-go-go 24~30

●公演情報

●Just Finished! / 「コンコードスイングジャズフェスティバル in 静岡」

●プレゼント ●友の会のご案内 ●SPAC NEWS ●TOPICS

●TRY GRANSHP

●SUPPORTER's VIEW READER's VIEW Editor's room



(2009年制作)

表紙アート●望月 通陽 作品タイトル:『久遠の駅』
ヴェローナからパドヴァに向かった。不安ではあったがバスに乗ることにした。途中のヴィツェンツァでは美しい市内を一巡して、駅前にしばし停車したのだが、車窓を眺めるとひとりのシスターが誰を待つのか、あらぬ方を見つめて立ちつくしている。あれから数年がたったが、今もあの街を思い出すたびに、シスターはあのままの姿で、待ち人に会えないでいる。

しずおか

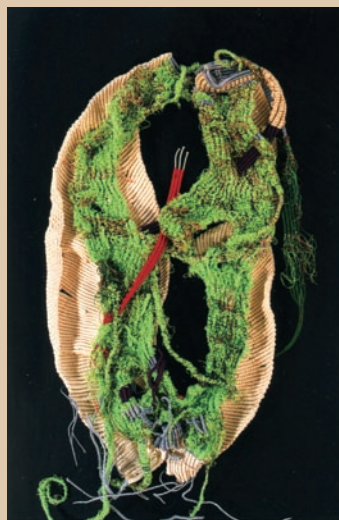
27

アーティスト・リレー

マクラメ作家
鈴木真弓

東儀 恭子 さん

次回
日本画家



「私の夢のなか」 2009年 サイズ/H110×W90cm
素材/綿・麻・アクリル糸

見ながら感じながら暮らす中で

作品への想いが動いて行く

結びの点から線へ……面へと

単純な積み重ねが心の落ち着きを取りもどし

ひとつひとつの物語を綴るように

時間を蓄えながら

出来上がっていくものを 今

とても 楽しんでいる

スズキ マユミ●1985年よりグループ展・個展で作品を発表。1999年作品集出版。
2004年より公募展出品、第18・19回富嶽ビエンナーレ展 入選、第14回真綿の
ビジュアル・アート展 入賞。モダンアート協会准会員。現在、浜松市在住。

「しずおか連詩の会」によせて

『しずおか連詩の会』も今年で十回目となる。最初の五回は、外国の詩人がその都度各国から参加する形をとったが、その後の五回は、日本の現代詩人五人による構成で続けてきた。因みに、初回から五回目までの連詩は静岡県文化財団によつて、『連詩 闇にひそむ光』と題され出版されている。

毎回のことが、外国の詩人を含める場合も、日本の詩人たちが五人で連詩を巻くときにも、同じ場所に集まつて、いわば同じテーブルの上で詩を作るという原則は守られてきたといえよう。

つまり、一種宴の席ともいえる一つのテーブルを囲んで、それぞれの表現の異質さや個性の違いを楽しみ認め合い、創造的な刺激（しげき）を共有しようではないかという試みだったのである。

独り部屋に籠つて自分の世界を展開する詩作と異なり、順番で回ってくる前詩を手にとり、初めて読むその詩に触発され、その場で自分の詩を繰り広げて行くのである。どこかで前の詩に呼応しつつ次に渡す人の呼応に期待する。この作業は、ともすれば自分の内奥の表現を掘り下げようとしてきた現代詩人にとつては、驚きと苦吟をともなつたかもしれない。私は、近代社会で言われてきた「独創性」という観念を決して否定するつもりはない。個性的・独創的であることの大切さは十分に承知した上で、現代社会においては、この近代的観念自体、別の角度から捉えられるべきものに変つてきていると思えるのである。



大岡 信

科学の分野においては言うまでもないと思うが、文学や芸術においても、たった一人の天才的独創によつて驚異的な仕事が行われ遂げられるものではなくなっている。つまり、一人の驚異的な仕事の中には、世界の全過去、同時代の全世界の事情、思想・感覚など、様々な動きが融け合つていっているのであり、そうでなければ「独創」とはなり得ない時代になっていると考えるからである。

「連詩」は、むしろ、それほど大袈裟な独創性を考えてのものではない。しかし、私が経験してきた連詩の試みでは、「しずおか連詩」に限らず、外国で三か国ぐらいの言語の異なる詩人たちが集まつて行く時でも、最初はとまどいつつも、初日・二日目と、自分たちの詩が連なつて行くうちに、とまどいは驚きと発見に変つて、生き生きとした会話が詩人たちの間で飛び交うようになる。やがて最後のころになると共感と歎びが、五日前までは会ったこともなかった詩人たちを結びつけ、終了と同時に、苦吟した筈の彼らは「こんな開放感は何処でだ」と言いながら、互いを抱きしめ合うのだった。

しかし、この情景に至るには詩人たち相互の発見と対話は勿論だが、不可欠な条件として、参加者全員が同じ場所ですぐの通の時間を過ごすことが必要である。

『しずおか連詩の会』は、その不可欠な条件を毎回整えて詩人たちを迎え入れて下さる。ここにあらためて、主催者の静岡県文化財団、共催者の静岡新聞社、静岡放送に、心より感謝申しあげる。

二〇〇九年 しずおか

連詩の会

「言葉の収穫祭」の巻

創作 二〇〇九年十月二十六日(木)～二十八日(土) ホテルセンチュリー静岡
発表 二〇〇九年十月二十九日(日) グランシップ十一階会議ホール・風



連

詩とは、連句や連歌の美学をベースにした創作現代詩で、毎年さばき手を担う大岡氏は、その提唱者であり、第一人者。定まった形式はないが、本会では、五行と三行の詩を交互に繰り返すフォーマットをとっている。各詩にはさまざまな視点、モチーフが織り込まれ、別の詩人が後の詩を創作し繋いでいく。今回は、第一編を大岡信氏が担い、野村喜和夫氏をさばき手に5人の詩人たちが後を続けた。また、発表会では、創作者による朗読のほか、繋がり为解决のための解説が行われ、以下は、作品全編とその解説の一部である。



創作 ホテルセンチュリー静岡

詩人が捧げものを紡いでいく。
暗闇に不確かな影を探りながら。

【第一番〜第六番の解説】

信…(代読)「身ごもる」「生み落とす」

は詩人の作業。今回はちょうど10回目なので、お祝いの気分を込めました。

昌代…「生み落とす」から塊のイメージと、会が始まったばかりの緊張から「煮凝り」と。私は悪玉コレステロール

値が高いので(笑)、サラサラ流れるものへの憧れもありまして。ちょうど

25階の窓から鳥が見えたんですよ。

退二郎…確かに創作中は天気がよく暖かくて、25階からは「明」しか見えない。でも、その陰には「暗」もある

と。また、目には見えない言葉に光があたつて影ができる。その影を言葉だと我々は思っているが、それは影に過ぎないんですよ。

弘…見えない言葉を作者にもコントロールできない不思議な生き物として「蟹」を持つてきました。

喜和夫…彼は今回の会にリズムの変化を生むというか、トリックスター的な活躍をしましたね。

亮…今回、初めて静岡に降り立って、止まっている富士山を初めて見ました。(笑)福島に暮らす私から見ると、「駿河湾」は外からの風が吹いている。詩が運ばれる作品にしたいなと思ったんです。

喜和夫…「照らす」から「稲びかり」に。「頭脳の甲羅」を肉体の営みに転換しました。連句などには恋の座があるので、入れてみようと思ったわけです。

一 僕はまた、身ごもる。

時空に漲っている 思考も感覚も沈黙さえも いそいそと嚙下するからだ

そして生み落とす、

言葉の収穫祭への 捧げものを。

二 窓からは雪をかぶった南アルプス

わたしのなかの血の煮凝りを

白鳥の群れよ 散らせ 遠くへ

三 青い空、静かなる丘のかげに

ひっそりと隠れているのは

私の心の暗いスロープ

よく見るとそこにさらに黒い

斑点は、言葉の影たちだ

四 かちやかちやかちやかちや

かちやかちやかちやかちや

「かに本家」に蟹が出勤

五 かちやかちや 何億もの虹色の蟹たちが 未明の渚から

ハサミを振りあげて 次から次に冬の始まりを運んでくる

夜更けに八本の足が生えてきて一斉に 駿河湾からここまで

這い上がってきた詩がたつたいま そして 卓上にある

私たちの頭脳の甲羅を照らすのは 何

六 なんとといういたずらな稲びかりだ

せつかくの私たちの秘めごとを おぐらい肉のはかりごとを

ストロボ状に浮かび上がらせるなんて

七 ひきさかれた わたしたち

めくれあがった詩から

はみ出した ふくらはぎが一本

飛行船となって ブラブラ

静岡の空を 飛んでいくよ

信

昌代

退二郎

弘

亮一

喜和夫

昌代

「言葉の収穫を創作の場に役立てていただければ、新米さばき手としては幸いです」



野村 喜和夫

のむらきわお

早稲田大学文学部卒。現代詩の先端を走り続けるとともに、批評、翻訳、朗読パフォーマンスなども行う。詩集『反復彷徨』『特性のない陽のもとに』（歴程新鋭賞）『現代詩文庫・野村喜和夫詩集』『風の配分』（高見順賞）『ニューインスピレーション』（現代詩花椿賞）『街の衣のいちまい下の虹は蛇だ』、評論『ランボー・横断する詩学』『散文センター』『21世紀ボエジー計画』『金子光晴を読もう』『現代詩マニュアル』、CD『UTUTU／独歩住居跡の方へ』など。1951年埼玉県生まれ。

「参加を決めてから不安で不安で。でも、地図なんか要らなかったね」



天沢 退二郎

あまざわたいじろう

幼少期を満州（現中国東北部）で過ごす。東京大学仏文科卒（フランス文学専攻）。詩集に『道道』『朝の河』『夜中から朝まで』『時間錯誤』『血と野菜』『Les Invisibles』（歴程賞）『〈地獄〉にて』（高見順賞）『欄外紀行』『幽明偶輪歌』（読売文学賞）ほか。評論に『宮沢賢治の彼方へ』、訳書に『ヴィヨン詩集成』『聖杯の探索』、童話に『光車よ、まわれ!』など。また、共編著に『校本宮沢賢治全集』ほか。1936年東京都生まれ。

「この男たちに負けてなるものかと。（笑）詩を書き、闘う気持ちが湧いてきました」



小池 昌代

こいけまさよ

津田塾大学卒。詩集に『ババ、バサラ、サラバ』ほか。短編集として『感光生活』『ルーガ』『裁縫師』『タタド』『ことば汁』などがあり、『タタド』（川端康成文学賞）は、毎年、夏に出かける静岡・多々戸浜の風景から着想を得た。新刊に編著アンソロジー『通勤電車によむ詩集』、近刊に長編小説『転生回遊女』がある。1959年東京都生まれ。

八 そのとき、風が吹き出した
いや 風ではない、声だ、

「地獄」の方角からの、低い、美しい歌声だ

九 新しい伝言一件目。

今日の午前2時2分の伝言です。

「あなたのシャーペンの芯、足しておきました。

あなたのシャーペンの消しゴム、取り替えておきました。

あなたのカッターの刃、折っておきました。」

十 たえばこの世界の伝書鳩になりたい

夜明けまで手紙を書きあぐね それでも伝えたいことがある

朝のキッチンのだしの先で光り 滴る ひとしずくの宇宙を

十一 夕映えの窓にもたれて待っているのは

美しい言葉ではない

優しい言葉でもない

待っているのは数字

新型インフルエンザ予防接種の予約番号

十二 新しい伝言n件目

あさつての午前8時の伝言です

「きみの五〇年後の出生きました。おめでどう」

十三 悪魔は黒い眼鏡をかけて

ひこひこ笑う やめて

酢豚のブタが降ってくる

25階までよくのぼってきたね、身重の黒蝶

「生みつける場所がどこにもないよ！」

十四 悲鳴に先立たれて おまえは在る

せめて絵本の世界でのように 三日月に腰かけて

流星雨でも浴びるがいい 虫のごとき生よ

十五 わが半生は月面の暴風雨である そして

これからの半分は燃える絵本の如きである

それならば 絶望も怒りも哀しみも

天使のあくびへと変えてしまおうかしら 冬の蜂たちは

こんなふうに酔って生きて 夢に死んでいくのさ ぶんぶん

十六 整形手術を繰り返して別人になったのに

港で手錠をかけられちゃった

「ぶんぶん」って口癖が命取りだったのさ ぶんぶん

退二
郎

弘

亮一

弘

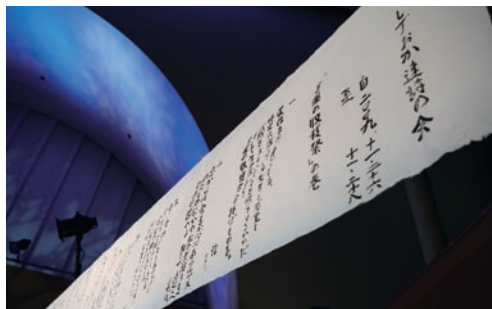
退二
郎

昌代

喜和夫

亮一

弘



【第十五番〜第十七番の解説】

亮…25階の窓にぶつかっては離れていく「蜂」を、思い浮かべた消えていく詩の様に重ねました。先日亡くなられた隣町の作詞家、丘灯至夫さんが作詞された「みなしごハッチ」を思い出しましたね。

弘…前の詩の「ぶんぶん」に魅了されましたね。最近の事件で整形手術までして別人になったのに捕まった容疑者がいましたけど、自分の知らない口癖のせいで見つかったとしたらどうだろうか。「こんにちは、ぶんぶん」とか。（笑）

退二郎…人間が犯してきた最大の犯罪は、戦争であると。実は部屋にボールペンを取りに行った時、エレベータの中で「戦争」という言葉が浮かんだんです。つまりボールペンのせいで戦争になった。戦争はそうして起こるわけです。

【第二十四番〜第二十五番の解説】

弘…これはその日の朝、和合さんが本当にこう言っていて、大みあいだなと思いながらメモしておいたんです。（笑）そんな大みあいな和合さんがコンビニいったら、猫の大好物ばかり棚に並んでいたらどうだろうと意地悪してみました。（笑）

昌代…この四人は本当に意地悪なんです。だから、身を翻したい、「海」に行きたいと。穂村ワールドから、幼年の昭和の世界に飛んでみました。

十七 戦争に行つて五年、ずいぶん人を殺してやつと帰つて来たら、国の中が内戦、

家族みな殺されて、やつと終つてすぐ

また戦争に行つて十年、ずいぶん人を殺して

やつと帰つて来て一夜、目覚めたらみんな夢だった

十八 うずくまつている まゆげの濃い男が

がばり立ちあがり マンゴーを食う

ゆれている 蠅取り紙が

十九 だが不思議なことに骨はベッドに残されたまま

けなげにも徐々に成長をはじめるので思はず

水をかけてやりたくなり実際にさうしてみると

数日後に骨はちひさなバオバブのやうなかたちになつて

その枝のさきからいくつもの未知の顔が咲いたよありがたう

二十 どの顔にしようか どの骨にしようか どの家族にしようか 私は

必ず夜中にシーツの荒海を漂流して 一度は消えてしまふ そしてふと現われる

いつもと同じ顔と骨と家族を探せば かううじての私であつた はじめまして

二十一 さすがに腹がへつた。もう三日は碌なものを食つていない。

ジュネーヴのホテル、長い長い廊下の端の食堂で

飯にスープをかけただけの一皿を爪楊枝二本で掬つて食べる

いくら食べても腹はおさまらぬ、また長い廊下を走つて走つて

サイゴンのホテルの食堂？ 否、眼前には奇怪な大寺院が！

二十二 密林の奥の仏たちは

朝日を浴びた巨大な石の壁から

何世紀ものあいだ きりもなく湧きつづけている

二十三 犬の夢で輝くのは黄金の富士である

犬の唾液とは東シナ海の渦潮である

犬の足とはエジプトの厚い雲からもれる光である

犬の尻尾とはメキシコの平野を渡る恵みの風である

地球よ 宇宙の忌まわしい番犬よ もつと牙を剥け

二十四 「大丈夫つす。自分、コンビニの場所は匂いでわかりますから」

つて言葉通りに発見したコンビニに入ったら、

棚という棚にマタタビがぎつしり。

二十五 夕方にはどこにも居場所がない

海へ行くバスに乗りましよう

次はアア郷愁の コンビニフ缶詰工場前

コンビニフ缶詰工場前

鳩になれ 女子従業員さんの白い手袋

退二郎

昌代

喜和夫

亮一

退二郎

喜和夫

亮一

弘

昌代

「連句は経験がありました、連詩は初めて。」

最後になってやっと文字も言葉もリラックスしてきたような」



穂村 弘

ほむらひろし

歌人。上智大学文学部英文科卒。歌集に『シンジケート』『ドライ アイス』『手紙魔まみ、夏の引越し(ウサギ連れ)』『ラインマーカーズ』、歌書に『短歌という爆弾』ほか。『世界音痴』『によっ記』『もしもし、運命の人ですか。』『整形前夜』等のエッセイのほか、ほむらひろし名義による絵本翻訳も多数。『短歌の友人』で第19回伊藤整文学賞、『楽しい一日』で第44回短歌研究賞を受賞。1962年北海道札幌生まれ。



和合 亮一

わごうりょういち

第1詩集『AFTER』で第4回中原中也賞、第4詩集『地球頭脳詩編』で第47回晩翠賞受賞。読売新聞・日経新聞(夕刊)・ディズニーファミリーサイト等で連載のほか、ラジオパーソナリティーとしても活躍中。全国の文学館、学校などで詩作講座や子ども向けワークショップを行い、合唱曲や校歌などの作詞も手がける。六本木詩人会主宰。1968年生まれ。

「だんだん自分が自分でなくなる、そんな無名の連帯感とあたたかな気持ちを感じました」

二十六

水雨の中であがりつづける凧もあれば、
蜂に飛びこまれて墜落するジェット機もあり、
おれは豚にまたがって世界一周したこともある

退二
郎

二十七

蛸の愛を思い描こうとするが
どうしてもイメージできない
八本腕のドンファンやヴィーナスの吸盤らが
おおくんずほぐれつして わが脳はさながら
あらたな種の生成の予感に泡立つ極地の混沌

喜和
夫

二十八

夜のうなぎが身をくねらせながら 深い意味の底へと潜っていく
泥の終わりで反転し やがて無意味な魚類となり果てる
快樂だけが 湖の水面を波立たせると 生あたたかな雨

亮一

二十九

夜のお菓子 夜のおもちや 夜の子供
夜の先生 夜の生徒 夜の授業参観
夜のモーニング娘。 夜の朝青龍 夜の曙
夜の8時だヨ!全員集合 夜の徹子の部屋 夜の愛は地球を救う
まわりつづける光車よ!

弘

三十

午前三時 人知れずスイッチが入って
いきなりまわる まわり始める 大観覧車が まわる まわって
緑色の箱のなかに 捨ててきちまった 赤ん坊が泣いて

昌代

三十一

きみは見過ぐすしかない 過激な空の青に追われるがいい
光と風と意味とは容赦なく続いている しかし きみは見つめるしかない
空の奥で吹かれている未生の言葉 なんと典雅な 孤絶の青
やはりこの処刑から目を反らすしかない だからこの屋上は
立ち入り禁止だったのだ 頬を撫でる真冬の怒りだ びようびよう

亮一

三十二

えのころぐさ すすき あし
地上では草を香らせ 草を織り込み そこに父祖たちの
きらめく蛇のような健康も ひそませて

喜和
夫

三十三

保険証も持たず 一人あのひとは旅に出た
ほつれた虹色のセーターを着て。
行商のおばさんが 縁側にひろげる
あげもち 青菜 イナゴの佃煮
誰のものか 福耳一つ

昌代

三十四

「ひかり」479号の禁煙グリーン9号車3番D席に
蟬螂が乗っていた
鎌を真つ赤に濡らして

弘



発表 グランシップ会議ホール・風

桜井 洋子 さくらい ようこ
NHKエフエムタイプ・アナウンサー。
発表の席の司会は、今年で4回目。



「連詩は、静岡県や
グランシップにとって
本当に大きな財産に
なりましたね。」



**あれあれ 俺俺 たーんたーん
オノマトペの呪文に光が射して。**

〔第三十六番〜第四十番の解説〕

亮一…天沢さんの原稿を覗き見てやばいなあと。一番悩みました。それで「あれ」から「俺」へ。「言葉の収獲祭」というタイトルなので「俺」を収獲したんです。

喜和夫…「どうすればいいのか」と来たのでアドバイスのつもりで書きました。今回の男性陣はみんな永遠の「少年」のようなんです。ただ、二つ前の天沢さんの「あれ」の呪文の反響を無意識のうちに受けてましたね。ルール違反かもしれませんが。

昌代…終末までもう少し。自爆したような気持ちで「テロリスト」と。「おでんの底」にある玉子のようなのが爆発寸前なのでしょう。

弘一…「テロリスト」からビストルの弾のイメージで「仁丹」。「たーん たーん」の間に時代が動いていくと。野村さんが「なるほど時代が変わる」TURNとかけたんですねとおっしゃって、なんて自分は素晴らしいかと。(笑) 我々はみんな非常口にいるようなもの。最後に希望がほしくて羽をつけました。

退二郎…シャッターを上げ、カーテンを開くと、光が溢れこんで新しい一日が始まると。光で照らし出すと、ときには人を怒らせたり不幸にすることもあるが、とにかくすべてを晒そうと。そして、これをお開きの言葉にしたわけです。

三十五 あれ あれ、あれよ あれよ
あれよ あれよ あらあら あれよ
あれあれよ、あれわれよ あらわれよ
あれ、なれよ あれわれわれよ
あれよ あれよ あれよ あれよ (くりかえし)

※注 ある「動詞」在る生まれる等

三十六 俺は「俺」という単語をこの世界から盗み出した
だから俺以外の「俺」は全て詐欺である 俺しか
「俺」は使えない 俺 これからどうすればいいのか

亮一

三十七 スカートのなかの劇場に眼を忍び込ませたり
膝がしらに暴動の未来を匂わせたり
丘の廃屋で光年の雫を飲んだり
全力で少年であれ
不穏であれ

喜和夫

三十八 「いいこともあるさ、やけをおこしちゃあ、いけないよ」
おでんの底に
ゆらり ゆらめく テロリストをなだめて

昌代

三十九 指から零れた仁丹の粒が階段を弾みながら落ちてゆく
(たーん たーん たーん たーん たーん たーん たーん たーん たーん)
将来の夢が変わった 新幹線の顔が変わった あの人の苗字が変わった
(たーん たーん たーん たーん たーん たーん たーん たーん たーん)
「非常口の緑の人」に翼が生えた

弘一

四十 「光、あれ！」そしてシャッターを押し上げる――
「さあ、光よ、この四十ふさの作物を、
来たりて白日のもとにさらせ！」

退二郎

創作 二〇〇九年十一月二十六日(木)起
同月二十八日(土)満尾

於 ホテルセンチュリー静岡

参加者 詩人

大岡 信
小池 昌代
天沢 退二郎
穂村 弘
和合 亮一
野村 喜和夫

発表 二〇〇九年十二月二十九日(日)
於 グランシップ十二階会議ホール・風

99年、グランシップがオープンする約2か月前、デビュー40周年を迎えたそのピアノリストは、「7歳の頃に戻っても一度バッハを勉強したい」と語った。実際、4月の中ホール・大地のこけら落とし公演では、バッハの「平均律クラヴィーア曲集」より2曲を演奏。あの日からあつという間に10年が経った。

中村紘子の楽壇デビューは、今からちょうど50年前。日本中が皇太子ご成婚に沸いた年のことだ。以来、日本は高度経済成長を遂げ、音楽ホールが次々と誕生。本人が「日本の成長のお陰を被ったのは幸運なこと」と語るように、その後の栄光の軌跡はご存知の通りである。

今回のリサイタルでは50周年の冠にふさわしく、61年の12月19日、東京文化会館にて彼女が初リサイタルを行った際のプログラムとそっくり同じものが用意され、ほぼ同じ形で進行されるという。驚くのは曲目が実に多彩、多様であるということだ。おそらくそれはクラシックのコンサートに出かけていく機会が少なかった当時の音楽事情を考えてのことだろうが、その頃、彼女はまだ十代。その大器ぶりがうかがえる。

彼女のピアノは、絢爛で情熱的、そして、ロマンティックと評されることが多い。が、その華のある音楽は生で聴いてこそそのものだ。10周年のグランシップでぜひ、お楽しみを。

初リサイタルの再現プログラムでおくる華やかで情熱的なピアノのひとつとき

2010.1/29(金)

19:00開演(18:30開場)

グランシップ 中ホール・大地

チケット発売中 全席指定

S席 4,000円 A席 3,000円 学生 1,000円

♪♪ プログラム ♪♪

※1961年12月、東京文化会館での初リサイタルの再現プログラム

スカルラッティ=タウジヒ／パストラーレとカプリス
ベートーヴェン／ピアノ・ソナタ第8番

ハ短調 Op.13 “悲愴”

シューマン／謝肉祭 Op.9

—— 休憩 ——

フォーレ／ワルツ・カプリース 第1番 Op.30

ラフマニノフ／2つの前奏曲

変ホ長調 Op.23-6、ト短調 Op.23-5

ショパン／バラード 第1番 ト短調 Op.23

練習曲 変ト長調 Op.10-5 “黒鍵”

練習曲 ハ短調 Op.10-12 “革命”

ポロネーズ 変イ長調 Op.53 “英雄”



中村紘子

デビュー50周年記念ピアノ・リサイタル

©尾形正茂

中村紘子 公式ホームページ <http://www.nakamura-hiroko.com>

桂 歌丸

他人の間、 自分の間。

「話を教えることはできる。

でも、間を教えることはできないんです。

早く自分の間をこしらえた人が勝ちですよ。

今もって他人の間、他人の話は勉強になりますね。

だから、あたしは楽屋に早く入るんだ」

笑いのない時代。

滋味を含んだ、少ししゃがれた声の、師匠の「あたし」には風情がある。江戸の下町言葉の向こうには、落語という話芸の粋が薫っている。かの有名な長寿番組では、ときにバツサリ、ときにオチの先読みで、舌鋒鋭く座布団の上の斬家たちを斬り返し、観客は笑いとともにその粋を存分に堪能する。笑いのない時代に笑いの道を志し、笑いのブームに沸く今、笑いを極める名人に、その地元、横浜でお会いした――。

――師匠は横浜のお生まれだそうですね。当時、お近くに寄席はあったのですか。

「昔はね、有名な寄席があったそうですよ。それがなくなつて、相鉄演芸場というの

ができたんです。昭和三〇年ぐらいでしょう。不況のどん底で東京の寄席は軒並み赤字でしたが、そこだけ黒字だったと聞いています。でも、長続きしませんでした。その後、一週間に一ぺんだけの寄席(スカイ劇場木曜寄席)もありましたが、本格的な寄席は今から七年ぐらい前にできた横浜にぎわい座。

あれが戦後の本格的な寄席の始まりです。」
——では、師匠が落語に親しまれたのは、主にラジオ番組ですか。
「そうですね。戦後、それこそ素人が組み立てたようなラジオしかなくて、局だってNHKの第一と第二放送しかない時代です。一週間に二回、寄席の番組があったんですよ。」

——早くから落語家を志したとうかがっています。
「戦後、まるで笑いのない時代でしたよね。そんな時代に、ラジオでは戦後の名人といわれる人が笑わしているわけです。人間、泣かせることと怒らせることは簡単なんです。笑わせることは一番難しい。それで、これかなと思ったんです。小学校四年の時には、もう噺家になると決めてました。私は祖母に育てられたんですけれどね。その祖母に小学校を卒業したら噺家になるって言ったら、みつともないから中学だけは行ってくれと。それで嫌々行きましたけど、中学三年の在学中にはもう入門しちゃいました。」

——修業時代はいかがでしたでしょうか。
「それは辛いですよ。それでも私の師匠の(五代目古今亭)今輔師匠は、ほかの師匠と違って、こき使ったりしない人でしたからね。

ましてや内弟子をとらず、通いでしたから。洗濯したり、掃除したりということとはまったくなかったですね。」
——落語家としてのお仕事は、早くから数多くあったのですか。

「ないです、ないです。もう寄席だけですよ。だから、修業そのものより、むしろ貧乏で苦労しました。噺家になってちょうど一年目で祖母が他界しましたので、独りぼちになっちゃってね。今輔師匠は親代わりに面倒を見てくれましたけど、家に帰れば一人でしたから、貧乏と寂しさが何よりも辛かった。だから、結婚は二十一歳と早かったです。さあ、結婚した方がいいが、食うのに困っちゃって、内職もしましたよ。」

——テレビなどで早くから活躍のイメージがあります。
「二十七歳の時に、今の『笑点』の前身の番組があったんですよ。その頃、プロレスが盛んで、夜の十時半から十一時までプロレスと交互に隔週で『金曜夜席』という番組があったんです。これに出ていたんですけど、これが二年足らずでなくなつて、半年も経たないうちに『笑点』が始まったんです。それから徐々に名前も顔も知れてきたんでなんとか人間らしい生活ができるようになったわけです。」

——『笑点』といえば、日本を代表する長寿番組ですね。
「バケモノですよ。(笑)最初の放送から四十三年を突破しましたからね。大喜利の司会者は談志さん、マエタケ(前田武彦)さん、三波伸介さん、三遊亭圓楽さんで、私です。」

——大喜利メンバーでいらした時とくらべて、さばき手のお立場というのはいかがですか。
「真ん中で答えていた時は、解答者対司会者ですよ。六対一でやつてるわけです。それが逆転して、一人を受けて立つ立場になったわけですね。投げたものは受け取らなければ。こつちが投げたものも向こうに受け取ってもらわなければ。ただね、そこは全員が噺家ですから、誰もがそういう間を心得ている。だから、思い返すと談志さん、圓楽さん



「極上歌丸なし」(うなぎ書房) 桂歌丸／著 山本進／編
生まれ育った横浜・真金町の思い出から、新作派の闘将、五代目今輔入門に始まる落語人生と芸の暦を知る一冊。笑いにこだわる姿勢、埋もれた古典の復活への取り組み、「笑点」への思いなどが綴られている。

の時がやりやすかったですね。やはり噺家はやはり呼吸がわかつて。そういう思いをしただから、司会になった今、それを忘れないようにと思っています。」

古典を仕立て直す。

——ある時から古典に取り組まれるようになったそうですが。

「どちらかというとウチが所属していた落語芸術協会は新作派で、落語協会が古典派と言われてましたが、まあ、一人ぐらい古典をやるのがいてもいいだろうと始めたんです。そもそもは三十三、四年前、横浜で自分の独演会を持ったのが、きっかけなんですけどね。独演会ですと二席しゃべらなきゃならない。新作を二作というのは、いくら年に五回とはいえ苦しいですよ。だったら古典をやってみるか。今輔師匠は新作派でしたが、私は新作を習いながら古典も習っていましたから、下積みはあったんです。今はできなくても末にはできるからと、随分難しい話も教えてもらいましたよ。」

——古典の発掘にも積極的でしたっしょいですが、長い歴史の中で埋もれてしまう話にはそれなりに理由があるのですか。

「落語の中には差別的な、あるいは宗教的な問題で廃れてしまうものが多いんです。だから、そこをカットして組み立て直せば、できる話がいくらでもあるんですよ。歌舞伎の(市川)猿之助さんが、ない交ぜ してことをいいましたけど、一つの話でどうしてもできないことがあったら、バラバラにしちゃうんです。それで捨てるところは捨てて、捨てたところへ現代に通じるものを入れる、あるいはサゲを変える、あるいはサゲはそのままでも内容を変えてみるとかね。構成から脚本、演者まで全部やらなきゃならないわけですけど、まあ、それが商売ですからね。」

——落語は江戸の頃より寄席演芸の主格たるものですが、落語家冥利に尽きる瞬間

漫才をやろうと思ったこともなかった、と師匠。
「ところが漫才というのは二人でしょう。一人
が欠けちゃうと何にもできない。もっと言うと、
ギャラが半分になっちゃう。(笑)バカバカしいよ、
そんなもん。」



【かつらうたまる】

中学3年の秋に五代目古今亭今輔に入門、
古今亭今児を名乗る。のちに兄弟子四代目
桂米丸門下に移籍し、桂米坊を経て、'64年
桂歌丸に改名。'68年真打昇進。'04年落
語芸術協会会長に就任。当初は新作落語
を得意としていたが、現在は埋もれた演目
の発掘や古典落語に重点を置いた活動を
展開。テレビでは'65年に「金曜夜席」の大
喜利メンバーとなり、その後番組「笑点」に
スタート時から出演。'06年より司会を務め
る。'89年横浜市政100周年にて市民功
労賞、同年文化庁芸術祭賞、'91年横浜
文化賞、'96年神奈川文化賞、'04年浅草
演芸大賞、'05年芸術選奨(文部科学大臣
賞)ほか受賞歴多数。出囃子は「大漁節」。
著書に「岩魚の休日」「極上歌丸ばなし」が
ある。1936年神奈川県横浜市生まれ。

とはどのような時ですか。

「やっぱりお客さんが聴いてくれた時、ウケてくれた時ですよ。演者一人に何百人ものお客さんが笑ってくれる。それは噺家冥利、芸人冥利に尽きます。だから、今日のお客様にはどういう話が向くのかと、これを決めるのが難しい。とくに寄席ではね。だから、楽屋入りをなるべく早くして、前の人の話を聴くんですよ。」

——落語をはじめ、漫才、浪曲、講談など、日本ほどいくつもの話芸のスタイルを確立した国はないと思います。

「おっしゃる通りですね。日本独特の話芸をきちんと守っていく、それは商売にしている者の責任ですよ。よく外国へ行つて英語で落語をやる方がいますよね。それは大変な間違いだ。英語は向こうの国のものからです。日本語でやつてこそ日本の伝統文化というのが伝わる。私も毎年のように海外で公演をやっておりますが、字幕をこしらえたりしてやっています。それで面白いと言っていただけ。これが嬉しい。外国の方にとくに感心されるのは、扇子や手ぬぐいの使い方だね。普通に持っていれば扇子は扇子。でも、話によつてはそれが刀に、あるいはキセルに、徳利に見えなきゃいけない。手拭いもそうですよ。いかに財布に見せるか、手紙に見せるかですよ。」

——お弟子さんも多くいらつしゃいますが、噺家として大事な資質とは何なのでしょう。「それは、間、ですよ。話を教えることはできる。でも、間を教えることはできないん

です。間はみんなそれぞれ違いますから。だから、最初のうちは教わった人の間でいいんですけど、いかに早く自分の間をこしらえるか。それで早くこしらえた人が勝ちですよ。師匠の悪い間を、自分の一番いい間にする人もいる。今もって他人の間、他人の話は勉強になりますね。自分だけでやっていたんじやわからない。だから、あたしは楽屋に早く入るんだ」

——けれども今や落語芸術協会会長というお務めもあり、さぞかしご多忙のことと思います。

「会長としては、とにかく寄席に来たお客さんを大いに楽しませてくれと言いたいですね。ただ、人間に年齢があるように、話にも年齢があると思うんですよ。十代の時には十代の話、二十代には二十代の話とね。それが今、二十代の奴が『文七元結』や『死に神』をやつたりする。それじゃあ、お客さんが信用しないんですよ。今輔師匠は、茶系の着物は五十過ぎてから着ろと言いましたね。歌舞伎を見ると、茶系の着物はみんな老け役が着ていると。だから、あたしはその言葉を守つて若いうちは着ませんでした。そういう細かい気配りが大事なんですよ。」

——最後に三月のグランシップでの公演を楽しみにしている皆さんにメッセージをお願いします。

「とにかく理屈抜きに楽しんでもらいたいですね。一つは笑っていたく話、一つは聴いていただく話を持つてまいりたいと思います。どうぞお楽しみになさってください。」



2010.3/16(火) 完売御礼

グランシップ名人会 其の六

桂歌丸独演会

19:00開演 18:30開場

グランシップ 交流ホール

全席指定(税込)／前売4,000円(当日4,500円)



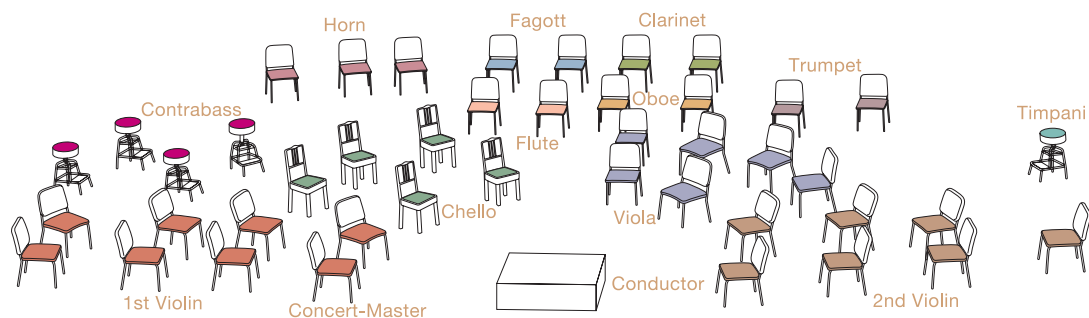
中学生のための音楽会

中学生諸君！
いい音楽を
聴こう。



モーツァルトが秘曲を書き記し、
世界のクロサワがロシア文学に出会ったのは
ちょうど中学生にあたる年頃。
だから、中学生諸君！
そんな運命の出会いが
キミにももしかして、
もしかするぞ。

モーツァルトは、14才の頃、バチカン
のシスティーナ礼拝堂で耳にした秘曲に
心を動かされ、暗譜でその音を記したという。
また、日本が世界に誇る映画監督、黒澤明の人生観や
倫理観に大きな影響を与えたのは、中学時代に出会った
ロシア文学だった。さらに本誌前号に登場のクラリネット奏者、
北村英治がクラリネットを手にしたのも、14才の時に聴いたベニー・
グッドマンのレコードがきっかけだったそうだ。小学生ほど子どもではなく、
高校生ほど大人でもない。ときとして“宙ぶらりん”などと呼ばれる
こともある中学時代。けれども、そこにはもっとも感受性豊かな
この時期にしか得難い体験、もっといえば、運命的な出会い
が潜んでいる。だから、中学生諸君、その貴重な時代
を大切に、本物の芸術にふれよう、いい音楽を
聴こう。もしかしたら、自分にとって特別な
“何か”が見つかるかもしれないから。





クラシックは、

本気の演奏は、

スゴイぞ！

今年は、金聖響&

オーケストラ・アンサンブル金沢で

“のため”の“アノ曲を聴く”！

もしかしたらこれが初めての「音楽会」。そんな中学生も多いことだろう。クラシックなんて、ベートーヴェンなんて知らない…は？なのに「あれ？この曲…？」そう、TVドラマですっかり有名、しかもこの冬映画が公開中の『のためカンタービレ』テーマ曲、これがベートーヴェン交響曲第7番第1楽章だ。第7番1曲をまるまる聴くと40分ほどになるが、それもまた素敵な経験。実際のところ、一流オーケストラの本物の音にふれたら、それが自分の知っている曲かどうかなんてことは関係ないということがわかる。初めてでもちゃんととどく。それが本物の芸術であり、グランシップが大事にしているところだからだ。

今年は、期待の若手実力派、金聖響・マエストロがオーケストラ・アンサンブル金沢を率いてやってくる。ベートーヴェンの交響曲の録音で知られるタッグにつき、クラシックファンなら“喉から手が出る機会。それを中学生が独占できるという幸運をくれぐれもお忘れなく。

芸術の素晴らしさを伝えるには、
演奏家の姿勢が大切。
そのために名称もプログラムも変えました。

グランシップ館長 田村 孝子



グランシップでは、昨年度から「鑑賞教室」という呼称を「音楽会」に変えました。これは前回の指揮者、本名（徹次）さんがお引き受けくださる際の条件でもありましたが、確かに「鑑賞教室」と「音楽会」では、音楽家たちの意識が違ってくるようです。音楽や芸術を通して何かを伝える、こそそれが文化。そのためには音楽の素晴らしさを実感できる演奏をとどけることが大切だと思います。

そのためにプログラムも変えました。ポピュラーな短い曲を集めた構成では演奏を高めるまでに至らないということもあり、これぞオーケストラと実感できる一曲と小曲の構成としました。30〜40分の曲をじっくり演奏するには、演奏家にもそれだけの覚悟が必要なんです。曲の選定につきましても、親しみやすい曲だけを並べ、食べ物でいえば、口当たりよく身をほぐして、さあ、どうぞ、と提供するのではなく、中学生が劇場に来て聴いて、むしろ「うたええを感じるもの」と考えました。

前回、本名さんには「ぜひ、中学生たちの目がテンになるような演奏を」とお願いしましたが、指揮者自らが息を切らして解説し、オーケストラが本気の演奏を聴かせ、見せてくださったことで、少なくとも「音楽は素晴らしい」と感じていただけたように思います。

私は、今回の「中学生のための音楽会」のようなものは公共文化施設として最優先にやるべきこと、そして、子どものために、いいものを、いかにして“とどけるか”については最も努力すべきことだと考えています。せめて小学生のうちに1回、中学生で1回は提供すべきだとも思っています。が、今回2日間提供できるのは3,600人ほどの中学生ですから、到底足りません。ただ、グランシップには、好きな公演を自分で選んで鑑賞できる「中学生・高校生の無料招待」もあります。さらに遠隔地の方々は、こちらから出向いておとどける「アウトリーチプログラム」も展開しています。（上質を身近に）おとどける取り組みを今後も重ねてまいりますので、ぜひご期待いただくとともに、積極的にご参加いただければと思います。

こどもたちの文化芸術鑑賞推進事業
中学生のための音楽会

1/27(水)・28(木) 中ホール・大地

指揮／金 聖響

管弦楽／オーケストラ・アンサンブル金沢

曲目／ベートーヴェン：「コリオラン」序曲 作品62

ベートーヴェン：交響曲第7番 イ長調 作品92



オーケストラ・アンサンブル金沢／Orchestra Ensemble Kanazawa

1988年、世界的指揮者、岩城宏之が創設音楽監督(永久名誉音楽監督)を務め、多くの外国人を含む40名からなる日本最初のプロの室内オーケストラとして石川県と金沢市が設立。世界的アーティストとの共演による定期公演、海外公演を実現。設立時よりコンポーザー・イン・レジデンスを実施し、多くの委嘱作品を初演、CD化している。ジュニアの指導や学生との共演、邦楽との共同制作など、オーケストラ育成・普及活動にも取り組んでいる。メジャーレーベルより70枚を超えるCDを発売。2007年指揮者の井上道義を新音楽監督に迎え、新たな活動を展開している。



©Benjamin Lee

金 聖響／Seikyo Kim

14才で渡米。1992年ボストン大学哲学科卒業。95年ニューイングランド音楽院大学院指揮科修士課程(97年ウィーン国立音楽大学指揮科修了)タングルウッド音楽祭で小澤征爾らに師事。96年「第2回若手指揮者のための国際コンクール」で最高位受賞。98年世界的権威のある「第12回ニコライ・マルコ国際指揮者コンクール」に優勝。2003年より大阪センチュリー交響楽団専任指揮者を務めた。国内の主要オーケストラに多数客演し、若手実力派として注目されている。03年よりオーケストラ・アンサンブル金沢との共演によりベートーヴェンの交響曲を順次録音。07年同オーケストラとブラームス交響曲第3番を大阪、金沢で行うとともに録音も行っている。



©Eisuke Miyoshi

主催／財団法人静岡県文化財団、静岡県

中学生・高校生 **無料招待**

静岡県内の中学生・高校生を対象に舞台芸術・音楽の鑑賞機会を無料で提供。毎年、グランシップで開催される静岡県文化財団主催の公演を3期にわたり展開。今年度の第3期にあたる現在は、以下の公演で受付中。

■ 1/24(日)グランシップ静岡能(先着10名)

■ 1/29(金)中村絃子デビュー50周年記念ピアノリサイタル(先着20名)

■ 2/11(木/祝)グランシップ スイングジャズクラブ
 ～情熱のラテンのリズム～(先着20名)

■ 3/26(金)侍ブラス(先着20名)

*各公演の詳細は、P24・25参照

●対象は中学生・高校生本人のみ。 ●一人あたり1期につき1公演のみ。

●各公演当日の2週間前までにお申し込み。先着順で定員になり次第、締め切り。

■お申し込み→ TEL.054(203)5714

■詳しくは→ <http://www.granship.or.jp/news/20090828/index.html>

「忘れられない中村絃子」

中川 洋一 (グランシップペンクラブ会員・浜松学院大学講師)

中村絃子を最初に聴いたのは一体いつのことだったろうか。古い記憶をたぐってゆくと、32年前の雨の日、静岡公会堂での演奏会に行き着く。会場入り口の黒い遮光幕が、吹き込む風で揺れていた。プログラムはベートーヴェンの「熱情」、ショパン、リストの作品、そして最後はムソルグスキー



目を開けた。そこで見たものは、最強音の和音をうち下ろすたびに、ロングドレスにつつまれた両脚が高く跳ね上がる光景だ。その響きはこの上なく清澄で力強い。やがて足先がペダルに戻ると、こんどはフワッとした豊かな音色に変わる。その姿を見た

感動まで連れて行かれてしまった。当時こうしたクセがあったことはご本人も気付いていないかもしれない。音楽的本能が自然にそうさせたものだろうし、そのアクション全体がとても美しかった。

ことし、デビュー50年を迎えた中村絃子。来年1月29日にはグランシップに登場する。ベートーヴェンの「悲愴」にはじまり、ラフマニフの「前奏曲」、ショパンの「英雄ポロネーズ」など、かつて東京のデビューリサイタルで弾いたプログラムをそっくり再演する。演奏の歴史・半世紀の一里塚である。ご本人も特別の感慨を抱いて演奏することだろう。

静岡の魅力 第5回フォトコンテスト

入賞作品、決まる！



最優秀賞 静岡の魅力「祝い船」中澤 仁（静岡県沼津市）

大政奉還の後、静岡に隠遁した徳川慶喜は、近在の風景を収めては自ら暗室作業にも精を出していたというほどの写真好きだった。さらに遡れば、下田生まれの下岡蓮枝は、日本の写真術の草分け、商業写真の分野においては開祖とも呼ばれる人物だ。また、現代に目を移せば、重鎮、大竹省二も静岡ゆかりの写真家である。

さて、その大御所を審査員長に迎えてのコンペティションといえば、「静岡の魅力フォトコンテスト」だ。10年前のグランシップ開館以来、2年に1度開催され、今回で5回目を数える。全国から1190点もの作品が集まり、このほど入賞作品が決定した。

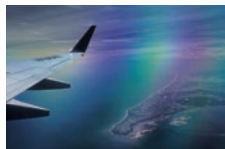
今回の特徴としては、県内の風景や名所、自然など、静岡の魅力を発信する「静岡の魅力」部門のほかに、県外から静岡の魅力を発見する「静岡と交流」部門を新たに設定したことにより、国内はもちろん、海外で撮影された作品が多数集まったことが挙げられる。また、応募者の大半を50代以上が占めるという点も、本コンペの特徴の一つだろう。

審査員から「ユニークな視点の作品が多い」「同じ時間帯、同じ被写体でも個性が出ている」と評された今回。すべての入賞作品は、新春のグランシップで、しかも無料でご覧いただける。静岡の魅力を再発見したり、次回の応募の参考にしたり。審査員の一人、山本晋也監督による「トークショー」もお楽しみに。

◆ 審査員 ◆

大竹省二(写真家)・藤井秀樹(写真家)・沼田早苗(写真家)・織作峰子(写真家)・山本晋也(映画監督)・徳川慶朝(写真家)・天野 一(静岡県文化芸術振興議員連盟会長)・田村孝子(静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ館長)

※賞名 部門名
作品名 氏名 (撮影場所)



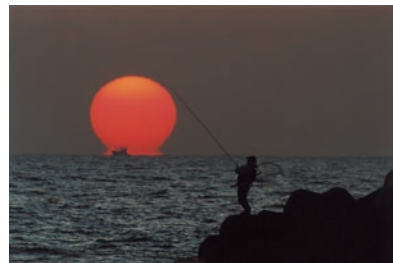
特選 静岡と交流「上空からの御前崎町」
望月 邦子(静岡県御前崎市)



特選 静岡の魅力「棚田暮色」
山田 英雄(静岡県伊豆市)



部門大賞 静岡と交流「タコマ富士を望む」 山本 義男
(米国ワシントン州マウント・レーニエ国立公園リフレクション・レイク)



部門大賞 静岡の魅力
「舞阪の落日」 鈴木 幸保(静岡県浜松市)



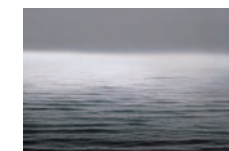
特選 静岡の魅力「晩秋の朝」
海野 久一(静岡県富士宮市)



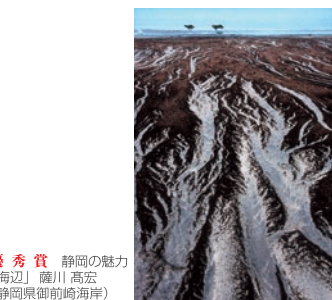
特選 静岡と交流「お茶席」
中野 豊(大阪府堺市)



ペンタックス賞 静岡の魅力「タンシグ」
芥川 宏子(静岡県藤枝市)



グランシップ館長賞 静岡の魅力「駿河湾」
コメニク インナ(静岡県静岡市)



優秀賞 静岡の魅力
「海辺」 薩川 高宏
(静岡県御前崎海岸)



優秀賞 静岡と交流
「打ち水絵巻」 平野 昌子(東京都江東区)

静岡県 現代舞踊協会

心豊かに生きるために
高い意識で取り組む「舞踊」。

「ともすれば文化活動はお金や時間のある人のも、趣味の延長であると思われがちだが、文化とは心豊かに生きるために欠かせないもの」――08年、地域文化活動賞受賞の舞台上で本協会の佐藤典子代表はそう挨拶した。それほどの意識と覚悟があるからこそ、『NEWわかふじ国体』の式典前演技は熱い喝采を呼んだのだ。09年夏はグランシップで北原白秋

の世界、オズの魔法使いのステージで、さらに秋には静岡で行われた『国民文化祭』でそのパフォーマンスに触れた人も多いことだろう。本団体は、現代舞踊の研鑽と創作活動を通して、舞踊芸術の発展と地域文化の向上・普及に寄与することはもちろん、同時に舞踊教育によって人間形成の一端を担うことを目的に掲げている。本来の活動のほか、07年にロダン館で上演された〈音楽とダンスと詩の朗読コラボレーション〉など、他分野の芸術家たちと織りなす創作世界もまた魅力的である。



- 団 体 名／静岡県現代舞踊協会（しずおかけんげんだいぶようきょうかい）
- ジャンル／舞踊
- 設 立／1978年
- 会 員 数／36名
- 代 表 者／佐藤典子
- 活動拠点／磐田市
- 活動エリア／静岡県全域
- 実 績／NEWわかふじ国体開会式演技（夏季・秋季）、浜名湖花博水辺の劇場参加。昨秋は国民文化祭のモダンダンスの祭典・フリーダンスフェスティバル・開・閉会式にも参加。平成19年度静岡県地域文化活動賞受賞ほか。

静岡県内の文化活動に関する様々な情報を伝えるホームページ！ **公開中！**
静岡県文化情報総合サイト しずおかの文化情報 <http://www.shizu-bunka.com>

Coming Soon

II

入場無料

グランシップ開館10周年記念事業
静岡の魅力 第5回フォトコンテスト

入賞作品展

2010.1/17(日)～31(日)
10:00～17:00(入場は16:30まで)
6階 展示ギャラリー

入場無料／要事前申込

静岡の魅力 第5回フォトコンテスト
入賞作品展特別イベント

山本晋也 トークショー

2010.1/17(日) 15:30～
11階 会議ホール・風

兵隊達の慰問のため、異国を訪れた戦勝国アメリカのスターたち。大竹省二による肖像作品をもとに、50年代のアメリカ映画を中心に女優・俳優たちを映画監督山本晋也がプレイバック。GHQ占領時に「アニー・パイル劇場」と改称された東京・宝塚劇場にまつわるエピソードを交え、独特な視点でトークを展開する。

〈申込方法〉

応募多数の場合は抽選

電話・FAX・E-mailにて、下記宛先まで申し込みを。

FAX・E-mailの方は、住所・氏名・電話番号・参加人数を明記のこと。

グランシップ「山本晋也トークショー」係

TEL: 054-203-5714 FAX: 054-203-5716

E-mail: info@granship.or.jp



フォトコン賞
静岡の魅力「朝日の中で」
山本 均（静岡県静岡市）



アサヒカメラ賞
静岡の魅力「浜松県合戦」
河合 勤二（静岡県浜松市）



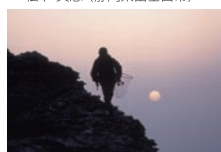
キャンノン賞
静岡の魅力「祭りの日」
松下 英志（静岡県富士宮市）



ニコン賞
静岡の魅力「オブジェ」
松永 忠郎（静岡県静岡市）



日本カメラ賞
静岡の魅力「祭りの日」
杉本 昌弘（静岡県磐田市）



富士フィルム賞
静岡の魅力「夕暮れの釣り人」
電井 ふたえ（静岡県賀茂郡松崎町）



エプソン賞
静岡の魅力「春漁の桜エビ干し」
小河 美弘（静岡県静岡市）



リコー賞
静岡と交流「ホストファミリーとともに」
中山 幸男（静岡県掛川市）



フォトコンライブ賞
静岡の魅力「うなづき」
鈴木 美喜夫（静岡県伊東市）

静岡には富士山があり、羽衣伝説があり、ミカン、茶、魚介、野菜といった自然の幸にもめぐまれている。かつては、江戸と京をむすぶ東海道という、当時の一大メインストリートの半分を占めていて、その檜舞台において行き交う東西の文化に、居ながらにして接触してきた。とくに駿府の隠居城で江戸の二代將軍秀忠をうごかす家康の威光の余韻が、駿河を中心にそこはかとなくただよっている。

ゆえに、静岡の人はゆつたりとした穏やかな性格を身につけ、めぐまれた衣食住のもとに悠然たる生き方をしてきた。とまあ、ここまでが褒め言葉で、だから好奇心やハングリー精神がうすく、他の土地の文化や歴史に興味をもたぬばかりか、住んでいる土地の文化や歴史をも、漠然とながめて暮す習慣がつき、それが現代の静岡人の特徴となって定着してしまったというのが、悪口がらみの静岡人観ともいうものなのだ。

この二つの面は、どちらが正しくどちらがまちがっているということではなく、静岡人の中に生きている二つの特徴であるにちがいない。ただ、現実の問題として、富士山や羽衣伝説や

家康をたよりにしていても、埒のあかぬシビリアな時代の風が、日本全土に吹いているのであり、静岡とてもその例外となることは不可能だ。

そんな時代に、富士宮やキツバを魁とするような感じで、各地域に次々と新しい名物が生まれていった。静岡おでんなども、その雰囲気の中でよみがえり、静岡おでんの名はいわば全国区となつて

いる。このような傾向は、“B級グルメ”ブームと呼ばれ、各地に影響を与えていった。実はこの“B級グルメ”という言葉は、従来の駿河人にとっては、決して心地よいびききをもつものではなかったはずだ。富士山を擁し、羽衣伝説にゆかりをもち、家康の余韻にひたる人々のプライドと、“B級グルメ”はそりが合いそうにないのだ。

しかし私は、その抵抗感をひとまたぎして割り切ったところに、“B級グルメ”をひきいる人々の思い切りのよさと気概を感じた。富士山でなくても、羽衣でなくても、家康でなくても、生きている舞台としての郷土への、自分なりの個性的なアングルが、“B

静岡人のよゆやかな反逆

級グルメ”の軸ではなからうか。巨大な存在を漠然とながめるより、身近な存在を鋭く凝視する……この姿勢の転換が、“B級グルメ”の内側にある意識改革であつたような気がする。

古いプライドを捨て去ることなく温存し、新しいプライドとうまくリンクさせる。両方とも消さないのは、きわめて静岡らしいセンスではなからうか。そんな“B級グルメ”のざわめきが、静岡に縁をもちつつ東京に住む私の目に、きわめて恰好よく、好もしく、そしてしたたかに映るのである。めぐまれた土地だから好奇心やハングリー精神がないと言われてきた土地の、これはさわか反逆ではなからうか。



【むらまつともみ】作家。東京生まれ。小学校～高校時代を清水（現静岡市）で過ごす。慶応義塾大学文学部卒業後、出版社勤務を経て文筆活動に入る。小説、エッセイ等、著書多数。『時代屋の女房』で直木賞、『鎌倉のおばさん』で泉鏡花賞受賞。





公演情報

2010/1-2010/3

※12月現在の情報です。出演者、天候等の都合により、公演の内容が変更されることがあります。



1/22

G

提携公演／シンフォニエッタ 静岡 第14回定期演奏会 モーツァルト:ジュピター& プーランク:モノ・オペラ「声」



ウィーンのヴァイオリニストを新メンバーに迎え、30名の精鋭が奏でるウィーン伝統の「ジュピター」。モノ・オペラ「声」は、コクトーの台本によるオペラとベルナル・ビュフェの版画が舞台上で同時展開される世界初の試み。

【指揮】中原朋哉

【出演】原田和加子(メゾ・ソプラノ)

■19:00開演(18:30開場)

■中ホール・大地

■全席指定 S席 8,000円 A席 6,000円

B席 4,000円

C席・車椅子席 3,000円

親子 3,000円 ※25才未満半額



チケット発売中

1/24

G CN L

コード47896 Pコード398-604 S

グランシップ静岡能



宝生流による今年の演目は、祝言の曲目でもある「花月」「石橋」。「石橋」は、宝生流第二十代宗家、宝生和英がつとめるシテの勇壮な舞は見もの、また、緊迫感あふれる囃子方が聞きもの。一曲。狂言「寝音曲」には野村萬斎が登場! お楽しみに。

【演目】

能「花月」(シテ/水上 優 ワキ/森 常好)

「石橋」(シテ/宝生和英 ツレ/大友 順)

狂言「寝音曲」(野村萬斎・野村万之介)

仕舞「八島」「藤 ヶ」(三山)「善知鳥」

■14:00開演(13:30開場)

■中ホール・大地

■全席指定 S席 5,000円 A席 4,000円

学生 2,000円



チケット発売中

1/16・17

G

提携公演／バレエ団芸術座 深沢和子創作バレエ「異邦人」



アルベール・カミュの「異邦人」を創作性に満ちた見事なバレエに作りあげた深沢和子。ドラマ性にあふれ、映像的、視覚的とも評価される成功作だ。

【演出・振付】深沢和子

【出演】篠原聖一、キミホハルバート、武元賀寿子ほか

■1/16(土) 18:30開演(18:00開場)

1/17(日) 15:00開演(14:30開場)

■中ホール・大地

■全席自由 5,000円



入場無料

1/17・31

グランシップ開館10周年記念事業 静岡の魅力 第5回フォトコンテスト 入賞作品展

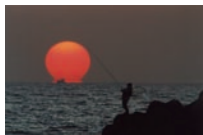
→P20~参照

■10:00~17:00(入場16:30まで)

■6階展示ギャラリー



最優秀賞 「祝い船」 中澤 仁



部門大賞 静岡の魅力
「舞殿の落日」 鈴木幸保



部門大賞 静岡と交流
「タコマ富士を望む」 山本義男



入場無料/要事前申込

1/17

山本晋也トークショー

■15:30開演(15:00開場)

■会議ホール・風

■入場無料/要事前申込

*申込方法はP25参照

→P20~参照



好評開催中!

1/11

G CN L

コード47120 Pコード986-551 S T KI

グランシップ開館10周年記念事業 没後50年 何必館コレクション

生活の中的美 北大路魯山人展

生涯をかけて美と食を追求した魯山人の作品を紹介。没後50年を迎える今年、初公開作を含む名品約200点を7つのテーマに分けて展示。

■10:00~17:00(入場16:30まで)期間中無休

■6階展示ギャラリー

■一般 1,000円 高校・大学生・70歳以上 500円

MAYA MAXXの「書き初め&トーク」

■1/2(土) 14:00~

■6階交流ホール

■本展示チケット購入者(前売券の方入場優先)

「魯山人大茶会」

■12/23(水・祝)・26(土)・27(日)

1/2(土)・3(日)・9(土)・11(月・祝)

■11:00~15:30(お菓子がなくなり次第終了)

■400円(お菓子付)



入場無料

1/1

初日の出特別開放



2009年元旦の様子

元日恒例! 初日の出と富士山とともに迎える新年。甘酒、おしるこなどのサービスも。(なくなり次第終了)

■6:30~(有料駐車場6:15~)

■10階展望ロビー



申込終了

1/8

静岡ガス創立100周年 特別協賛 グランシップ ニューイヤーコンサート

世界のディーヴァ中丸三千繪を迎え、華麗なるオペラの世界で優雅な幕開けを。

【指揮】堤 俊作

【演奏】静岡交響楽団

【ゲスト】中丸三千繪 堤 俊作 中丸三千繪

【プログラム】第一部:スメタナ/交響詩「我が祖国」より「モルダウ」、ハチャトゥリヤン/組曲「仮面舞踏会」より

第二部:ヘンデル/歌劇「セルセ」より「オンブラ・マイ・フ」、プッチーニ/歌劇「トスカ」より「歌に生き、恋に生き」・歌劇「ジャンニ・スキッキ」より「私のお父さん」ほか

■昼の部/14:00開演(13:30開場)

夜の部/19:00開演(18:30開場)

■中ホール・大地

■全席指定/要事前申込 1,000円(応募受付終了)



託児をご希望の方は、公演1週間前までに(財)静岡県文化財団企画制作課までご連絡ください。☎054-203-5714

※お預かりできるのは、2歳以上の未就学のお子様に限ります。



入場無料

2/19(金)・3/3(土)

高松宮妃のおひなさま展



徳川慶喜公の孫にあたる高松宮妃喜久子さまがご成婚のお支度としてお持ちになった京雛を展示。春のおとずれをつける華やかな雛飾りをお楽しみください。今回より無料で公開!

■10:00~17:00(入場16:30まで)
■6階交流ホール

会場内ワークショップ 折り紙でつくるおひなさま

【講師】磯谷佐紀子(NHK文化センター静岡教室講師)

■2/20(土)・21(日)・27(土)・28(日)
10:00~16:30

■6階交流ホール内
■参加無料
直接会場にて受付



要事前申込

3/14(日)

「しずおか文化」 講演会 Vol.7

■14:00開演(13:30開場)

■映像ホール

■講師/杉山恵一

(静岡大学名誉教授、
富士常葉大学教授)

■演題/「棚田を守ろう」(仮)

■参加料 500円



「山本晋也トークショー」
「子どもたちが伝える昔話」
「地域文化活動賞」
「しずおか文化 講演会 vol.7」
の申込方法

電話・FAX・E-mailにて、下記宛申込を。FAX・E-mailの場合は、住所・氏名・電話番号・参加人数を明記のこと。グランシップ「〇〇〇」係(「山本晋也トークショー」「子どもたちが伝える昔話」「地域文化活動賞」「しずおか文化 講演会 vol.7」と明記)
TEL:054-203-5714 FAX:054-203-5716
E-mail:info@granship.or.jp



チケット発売中

2/11(木・祝)

G C N Lコード48058 Pコード337-502 S

グランシップスイングジャズクラブ 情熱のラテンリズム



奥田「スイング」英人&ザ・ブルースカイ オーケストラ



どれみろ



横山達治

今回のテーマは「ラテン」。ぜひ、マラカス、タンバリン、太鼓など、楽器を持っておでかけを!

【ホストバンド】奥田「スイング」英人&
ザ・ブルースカイ オーケストラ

【ゲスト】どれみろ、横山達治(perc)、ティファニー(pf)、
ティファニー(vo)

■16:00開演(15:30開場)

■中ホール・大地

■全席指定 一般 4,000円 学生 2,000円

ジャズクリニック参加者募集

ビッグバンドの一員としてステージで共演! プロのテクニックを学ぶチャンス!

■練習日 2/10(水)18:00~21:00

2/11(木・祝)10:00~18:00(*本番終了まで)

■参加費 一般 5,000円 学生 3,000円

■対象 楽器演奏経験のある中学生以上

*申込はTEL:054-203-5714まで。



完売御礼

3/16(土)

G C N Lコード48697 Pコード399-904 S

グランシップ名人会 其の六 桂歌丸独演会

■19:00開演(18:30開場)

■6階交流ホール

■全席指定 前売 4,000円

→P11~参照



チケット発売中

3/26(日)

G C N Lコード48597 Pコード340-574 S

侍BRASS

金管アンサンブルのドリームチーム! ジャズとクラシックの頂点がタッグを組んだ最強ブラッスがグランシップ初登場。

■19:00開演(18:30開場)

■中ホール・大地

■全席指定 S席 3,000円

A席 2,000円 学生 1,000円



中川英二郎



チケット発売中

1/29(金)

G C N Lコード48035 Pコード337-126 S

中村紘子 デビュー50周年記念 ピアノ・リサイタル

■19:00開演(18:30開場)

■中ホール・大地

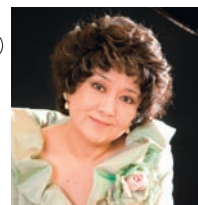
■全席指定

S席 4,000円

A席 3,000円

学生 1,000円

→P10~参照



撮影:尾形正茂



入場無料/要事前申込

2/4(日)

平成21年度 静岡ルネッサンス 「子どもたちが伝える昔ばなし」 発表会

県内に伝わる昔話を子どもたちが絵に描き、それらをデジタル加工して映像作品に。今年は駿東地域の昔話を上映。

【上映作品】

「平戸の地蔵さん」

「弘法井戸」

「頼朝の井戸」

「みくりやを救った伊奈さま」

■13:00開演(12:30開場)

■6階交流ホール

■入場無料/要事前申込 *申込方法は下欄参照



入場無料/要事前申込

3/7(日)

第23回地域文化活動賞 表彰式・発表会

県内で文化活動を行う団体を公募・審査により表彰。当日は活動成果の発表も。

■13:30開演(13:00開場)

■11階会議ホール・風

■入場無料/要事前申込

*申込方法は左下参照



3/10(日)・22(月・祝)

文化庁「地域文化芸術振興プラン」 山岡鉄舟と明治の群像展

明治初期に静岡県と関わりをもち活躍した山岡鉄舟をはじめ、静岡の礎を築いた先人達を紹介する展示会。江戸から明治という大変革期を、我々静岡の先人達はどのように捉え、いかに乗り越えたかについて再確認することは、混迷の時代21世紀を生きる私たちに大きな勇気と指針を与えてくれるはず。

■9:30~17:00(入場16:30まで)

■駿府博物館

■料金 300円

※会期中、3月13日、20日は講演会をはじめとした山岡鉄舟に関するイベントをグランシップ・駿府博物館にて実施!(詳細は後日お知らせいたします)

JUST FINISHED!



北村 英治 氏 ほか 3.Nov 2009

中ホール・大地での「コンコードスイングジャズフェスティバル in 静岡」公演終了後、ケン・ペプロウスキー、キャロル・ウェルスマンほか3名の共演者とともに。

読者 Presents

桂歌丸サイン色紙&サイン本 プレゼント。



3/16開催「グランシップ名人会 其の六／桂歌丸独演会」よりの桂歌丸氏(P111～参照)のサイン色紙を2名に、サイン入り著書「極上歌丸ばなし」を1名にプレゼント。ハガキに住所、氏名、電話およびプレゼント名を明記の上、下記あて郵送を。(平成22年2月末日消印有効)なお、当選者は商品の発送をもって発表にかえさせていただきます。〒422-8005 静岡市駿河区池田79番地の4 グランシップG係 TEL054-203-5714

MEMBERS 「グランシップ友の会」会員募集

グランシップが開催する公演・イベントをよりおトクに楽しんでいただくためのメンバーズクラブ「グランシップ友の会」。ぜひ、あなたもご入会を。

■会員タイプ・年会費(初年度年会費は入会月により異なります。)

- ◆レギュラー会員 年会費 2,000円
- ◆法人特別会員 年会費 200,000円
- ◆法人一般会員 年会費 100,000円

■特典

- ◆チケット割引10%割引
- ◆チケット先行予約
- ◆公演情報誌送付
- ◆提携店割引
- ◆法人会員特典(情報誌上に社名掲載)

(チケット代金のカード払いを希望の場合、NICOS-VISA・Master他提携カードの利用可)

■お申し込み・お問い合わせ

グランシップ友の会事務局
〒422-8005 静岡市駿河区池田79番地の4 グランシップ3階
TEL.054(203)5714 FAX.054(203)5716

〈友の会法人会員〉

静岡ガス(株)、(株)タミヤ、鈴与(株)、(株)静岡新聞社、静岡放送(株)、(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ、(株)劇団ひまわり、(株)ステージ・ループ、静岡県ビルメンテナンス協同組合、静岡信用金庫、(株)ビーエーシー、(株)テレビ静岡、(株)静岡第一テレビ、(株)コ・コーラ セントラル ジャパン(株)、(株)ダイド・ドリコ(株)静岡支店、(株)イノウエテクニカ、(株)伊藤園、静岡エフエム放送(株)、(株)ニッセー日本平ホテル、(株)コアズ

財団法人 静岡県舞台芸術センター 〒422-8005 静岡市駿河区池田79-4 TEL.054-203-5730 <http://www.spac.or.jp>

SPAC NEWS

SPAC冬物語



演出：イ・ユンテク
作：ニーノ・ディートローナ、ジャコモ・ラビッキオ
台本：ふじたあさや
出演：SPAC(三島景太、仲谷智邦)

公演(2010年) 静岡芸術劇場
1/16(土)・17(日)・23(土)・
24(日)・30(土)・31(日)
各日15時00分開演

チケット料金(発売中)

おとな／4,000円
ふたりチケット(2枚)／7,000円
大学生・専門学校生／2,000円
高校生以下／1,000円

親子モニター大募集

モニターチケット：限定 200組
(親子1組／3,000円)
子どもと一緒に。久しぶりの親孝行にも。
親子でSPACを体験してみませんか。
※観劇後、簡単なアンケートにお答えいただきます。

「ロビンソンとクルーソー」特別企画!

- ① 劇場探検ツアー
- ② リーディング・カフェ～日本語＆韓国語～
- ③ 観劇感想画大募集!

※詳細はSPAC ホームページをご覧ください。

無人島にあいつとおれだけ！
生きのびるには、
どうすればいい？



次回 予告

なんともゆかいな
遍歴モノ音楽劇!

パール・ギェント

原作：ヘンリック・イブセン
演出：宮城聡
出演：SPAC

公演日程(2010年)
3/6(土)・7(日)・13(土)・
14(日)・20(土)・21(日)
15時30分開演

静岡芸術劇場

一般：4,000円
同伴チケット(2枚)：7,000円
大学生・専門学校生：2,000円
高校生以下：1,000円

前売り開始
2010年2月7日(日) 午前10:00

SPAC
SHIZUOKA PERFORMING ARTS CENTER
芸術総監督 宮城聡

●電話予約／SPACチケットセンター Tel.054-202-3399
●ウェブ予約 <http://www.spac.or.jp>

TOPIC-1

静岡県から文化を発信!「国民文化祭しずおか2009」



オープニングフェスティバル



ビューティフル・フジマヤ



能楽の祭典



ダンス交流フェスティバル



美術展「美術工芸・クラフト」



しずおか大茶会

10/24、皇太子殿下ご臨席のもと「第24回国民文化祭しずおか2009開会式・オープニングフェスティバル」が大ホール・海にて開催された。オープニングフェスティバルでは、県民出演のミュージカル「今様膝栗毛」が上演され、静岡県出身の2007年

ミスユニバース森理世さんによるワイヤーアクションも披露された。期間中、グランシップでは「ふじのくに伝統文化フェスティバル」「映像文化フェスティバル」「シンポジウム『地域と文化』」等、関連イベントが開催され、芸術の秋を楽しむ人々で大いに賑わった。

TOPIC-2

再発見! 生きる力「全国障害者芸術・文化祭」



11/13～15の「第9回全国障害者芸術・文化祭しずおか大会」に延20,000人が来場。障害者によるアート作品が会場を彩る一方、「ねむの木学園の子どもたちによるコンサート」「太鼓フェスティ

バル」「パラミュージックジャンボリー」等、さまざまな音楽世界を展開。全日本ろうあ連盟創立60周年記念映画「ゆずり葉」上映後、監督・出演者によるトークショーも行われた。

TOPIC-3

グランシップモニター募集中。

静岡県民の方から幅広くグランシップ主催事業に対する意見・感想を聴き、今後の運営・企画等に役立てるため、モニターを募集。

【申込方法】所定の申込用紙(グランシップHPからダウンロード可)もしくは自由書式に郵便番号・住所・氏名・電話番号・性別・年齢のほか、400字程度にまとめ、持参・郵送・FAX・E-MAILいずれかにて応募。2/28締切(必着)

【資格】静岡県内在住・通勤の18歳以上の男女

【人数】10名

【期間】平成22年4月から平成23年3月まで

【活動内容】年間5回程度の意見交換会への出席(グランシップにて開催)、グランシップ主催事業を観覧しての感想・意見をアンケートにて提出(随時)

【応募・問合せ】

〒422-8005 静岡市駿河区池田79-4

グランシップ「モニター」係

TEL.054-203-5714 FAX.054-203-5716

MAIL info@granship.or.jp

HP www.granship.or.jp

グランシップ

外壁化粧石材(スレート)が落下した件について

平成21年10月15日(木)に当館の外壁化粧石材(スレート)が南側植栽内に落下いたしました。幸いに人や物に被害はありませんでしたが、これまで外壁化粧石材が落下していたことを皆様にお知らせしていなかったこと、また、ご心配をお掛けしましたことについて心からお詫び申し上げます。

当館では、落下の恐れのある区域のうち、建物外周の人や車が通行する箇所には屋根を設置し、通行しない所には植栽を設置の上、立入禁止措置を行うなどの安全対策を講じてありますので、通行者等の安全は確保されております。

また、県におきましても今回の落下を受け、徹底した原因の究明を行い、必要な対策を実施することとしております。

今後も、グランシップが安全安心、そして快適な施設となるよう万全を期してまいりますので、これまでと同様にご利用くださいますようお願い申し上げます。

平成21年12月15日

グランシップ 指定管理者
財団法人静岡県文化財団

GRANSHIP
SHOW-WINDOW ALBUM

「はばたく静岡国文祭 オープニングフェスティバル」をイメージ。三光鳥が飛び立ち、「ふじのくに静岡」に文化の光を求めてはばたく姿を表現。各地の「文化の光」を、三光鳥の由来「月・日・星」で表し、モーションで構成。各モチーフが、時間や天気によって異なる表情を見せた。



昼



夜

テーマ/「ふじのくに 月・日・星」
制作/第24回国民文化祭静岡県実行委員会

展示ギャラリーで アート展!



展示ギャラリー

趣味の個展も、グループ展も。

上質なアート空間におまかせ!

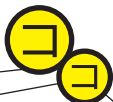
ちに応えるのが、3つのスペースから成るグランシップの展示ギャラリーだ。
最も広い(展示ギャラリー)は、天井が高く、開放的な空間が特長で、可動パネルによって空間を自在にアレンジできるのが魅力。他の2室は趣味の作品展など、小規模な展覧会にちょうどぴったりのスペースだ。3室すべてを合わせた利用も可能で、これまで絵画展、写真展、書道展をはじめ、さまざまな展示を開催してきた。ただし、手頃な料金設定のため、人気が高く、したがって競争率も高い。まずは空き状況を問い合わせるのが賢明だ。



書道展

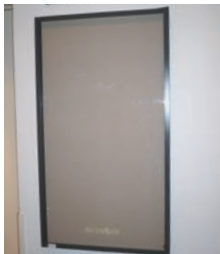
illustrated by
AKKO

グランシップじゃなきゃ! の魅力は



③

ポスターケース(153cm×83cm)も!



②

控室や荷物置き場に使える事務室!



①

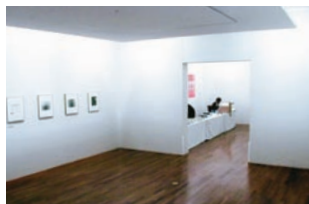
可動パネルで空間を自在にアレンジ!



〈展示ギャラリー1〉は「可動パネル」を使っての多彩な空間アレンジが可能。スタッフの控室などに活用できる**事務室**も完備している。さらに作品を吊るすワイヤーやスポット照明などのほか、告知用の**ポスター**ケースもスタンバイ。

展示ギャラリー 概要

- 面 積 展示ギャラリー1: 425m² 展示ギャラリー2・3: 113m²
- 展示壁面高さ 展示ギャラリー1: 5.9m 展示ギャラリー2・3: 2.9m~3.6m
- 可動パネル(展示ギャラリー1のみ) 幅4.6m×高さ3.8m
- 照明設備 ベースライト常設、照明スポットライト貸出



写真展



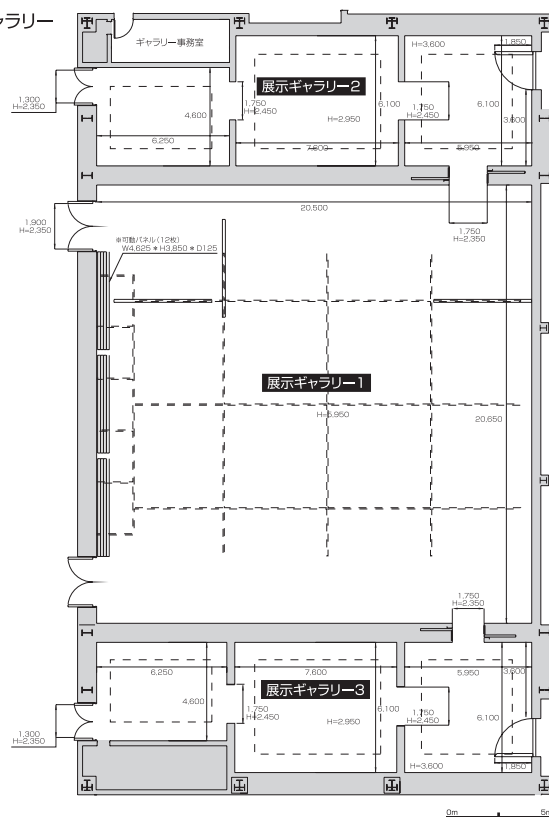
水彩画展

施設利用料金表

名 称		展示ギャラリー1	展示ギャラリー2、3
使用料(単位:円)	午 前(9時~12時)	7,200	2,100
	午 後(13時~17時)	9,600	2,800
	夜 間(17時30分~22時)	10,800	3,200
	午前~午後(9時~17時)	16,800	4,900
	午後~夜間(13時~22時)	20,400	6,000
	全 日(9時~22時)	27,600	8,100

※商業宣伝・営業等を目的として使用する場合は、当該区分の額に100分の200を乗じた額を適用します。

●展示ギャラリー



おしらせ

グランシップは、施設の定期点検のため、下記の期間全館休館となります。
施設使用にかかわる予約受付等の事務処理も休館中では行いませんので、皆様のご理解とご協力をお願いします。
(図書館コーナー、情報ラウンジ、チケットセンター、カフェ、レストランもお休みです。)

平成22年 1月12日(火)~14日(木)
2月 8日(月)~10日(水)

ご利用についてのご案内

【申込受付】

午前9時~午後8時 ※開館時間/午前9時~午後10時

【申込方法】

電話、または当財団窓口にて。※受付は先着順となります。尚、予約受付を開始する月のお申し込みについては、事前に「抽選申し込み」を承っております。(詳細は、利用サービス課までお問い合わせ下さい。)

お申し込み・お問い合わせ

TEL 054(203)5713

FAX 054(203)6710

財団法人 静岡県文化財団 利用サービス課 〒422-8005 静岡市駿河区池田79番地の4 メールアドレス yoyaku@granship.or.jp

施設の空き状況は、ホームページでも検索OK! <http://www.granship.or.jp>

【申込受付時期&連続使用可能日数】

施設区分	受付開始日	連続使用可能日数
国際会議や全国規模のコンベンション	随時	
大ホール、中ホール	利用開始日 2年前の同月初日	14日
会議ホール、交流ホール、映像ホール	利用開始日 1年前の同月初日	7日
展示ギャラリー	利用開始日 1年前の同月初日	14日
会議室、リハーサル室、練習室、グランシップ広場	利用開始日 半年前の同月初日	7日



グランシップは全館禁煙となっております。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

グランシップの運営にボランティアの立場で参加する「グランシップサポーター」が、それぞれの心意気や感想、体験談をレポートします。

SUPPORTER's VIEW

素晴らしい記憶

第9期サポーター 撮影業務担当 孫田 仁

グランシップ撮影サポーターとして、早いもので4年目が過ぎようとしております。その日々を振り返ってみれば、グランシップに携わった事業すべてが楽しい記憶として残っております。

最も記憶の中に残っている催事は、障害者の方々のアート作品を扱った「グランシップ自由芸術祭／NHKハート展」。作品を出品された方と鑑賞される方の双方を撮影させていただいたことです。表現されているものや鑑賞される方はさまざまですが、それぞれの純粹な気持ちや伝わり、心の眼で真剣に鑑賞されている様子などを撮影させていただいた時には、「本当に有難う」と心からの感動を頂戴しました。

残されたサポーターの任期の間に、今まで以上の素晴らしい出会いが待っていることを楽しみにしております。今後も素晴らしい行事が多く開催され、グランシップの益々の発展のために微力ながら協力できるように願っております。



Report 047

READER'S VIEW

「グランシップ音楽の広場」

の300名のオーケストラと

200余名のコーラス。(中略)大ホールもいっぱいの県民の方々。最高の感動をありがとうございました。まるで夢のようでした。(浜松市江間たき子さん)

● 毎号「G」で村松友視さんのコラム「文化漫遊」を楽しみにしている私。その村松さんの講演があるというのでワクワクしながらとんで行きました。(中略)静岡を愛している村松さん、大好き！ええ人だに。(静岡市久保田たみ枝さん)

● グランシップで働く人の息づかいを感じる「G」マガジン！(中略)「おとみち」では小さなブースで折り紙風の紹介をさせていただいた御縁もあり、懐かしい響きが甦ってくる。市民とプロが出会い、創りあげていく地道な積み重ねを声援している一人です。(浜松市星野知子さん)

● 「NHKハート展」去年も見ました。今年で14回目となるそうですが、とてもよかったです。心地よく響きました。パワーをもらいました。(静岡市岩淵みつ枝さん)

● vol.44は私のお気に入りの内容で何回も見直し楽しんでいます。北村(英治)さんはサインまで持っています。魯山人さん、いいですね。椿姫も大好きです。上質を身近に……ほんとですよ！(御殿場市榎屋かの子さん)

★ グランシップおよび本誌「G」に関するご意見、感想、お問い合わせなど、皆さまからのお便りをお待ちしています。なお、お寄せいただいたお便りは、本コーナーに転載させていただくこともあります。転載不可の方は、その旨明記の上、お送りください。

Editor's room.....

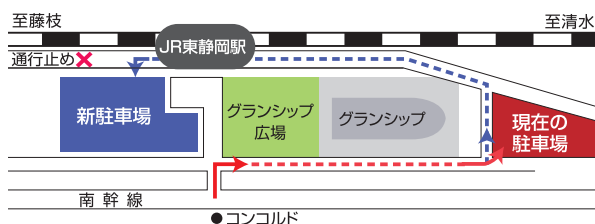
このところ、行政刷新会議の「事業仕分け」について報道されない日はありません。予算要求の縮減を求められた各方面から抗議の声も上がっています。確かに国の予算の使われ方については精査して欲しい面もあるので、良い機会になればと思います。ただ、地域への文化サービスを担う公共文化施設の立場からすると評価委員のコメントは余りにも日本の地方の実体を知らな過ぎると感じます。例えば「子どものための優れた舞台芸術体験事業」について圧倒的予算の縮減が求められています。今年度の予算「本物の舞台芸術体験事業」でも全国の小中学校の20分の1以下しか対象となっておりません。本号に紹介したグランシップの「中学生のための音楽会」でも県内の中学校1学年10分の1程度なのです。それは、地方と大都市の文化格差のためでもあるのですが、静岡でも上質で多彩な芸術を提供しようとする3倍の経費がかかるのです。確かに次世代を担う子どもたちのために豊かな文化環境を提供するのは、地方自治体の役目ではあります。でも、日本の文化環境の実体を把握した上での予算配分であって欲しいと願わずにはおれません。それと共に芸術文化関係者、そして地域の方々には積極的に声を上げて欲しいと思います。

グランシップ館長 田村 孝子

グランシップにお越しの際は、
混雑緩和のため、
公共交通機関をご利用ください。



● 注意 平成22年2月11日より
■ が新駐車場になります。



● ACCESS / 東海道新幹線(ひかり)で東京から1時間、大阪から2時間。JR静岡駅下車。東海道本線でJR東静岡駅まで3分。東静岡駅南口に隣接。